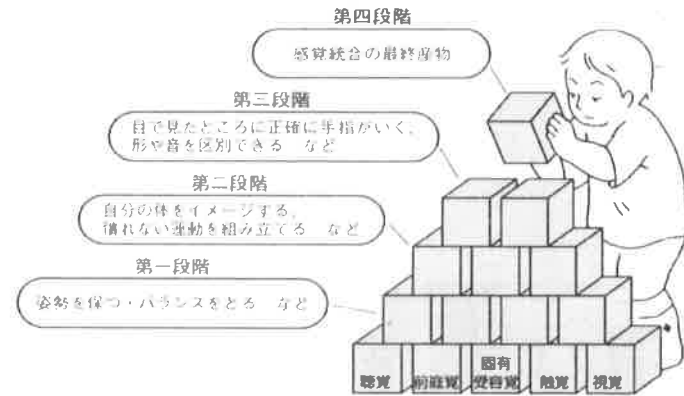


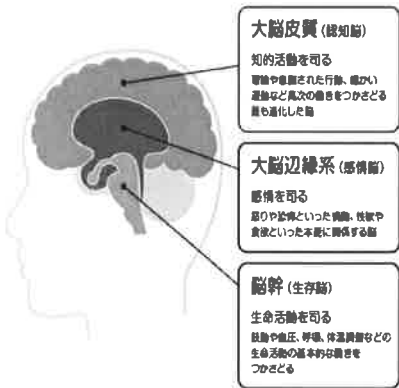
感覚と発達の関係

子供の発達の道すじ
五感と二覚について

1. 感覚統合

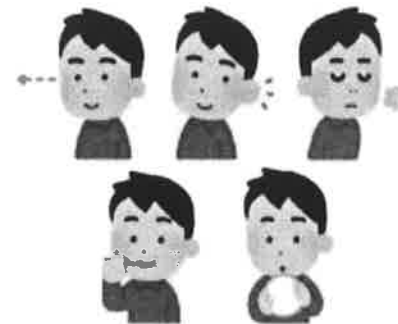


2. 脳の3つの働き



- 脳幹(からだの脳)
 - 命を健康に守り育てる
 - 生きるための意欲の中核、情緒の源
- 大脳辺縁系(こころの脳)
 - 知る働きを統合する脳
 - 視覚、聴覚、空間認知など末梢神経からの情報の統合、情報の記憶と整理
- 大脳皮質(ことば)
 - よりよく生きて行動する脳
 - 社会性、言語性、行動性、感情性、創造性などの人間らしさ

3. 五感と二覚① 五感



- 視覚
- 聴覚
- 嗅覚
- 味覚
- 触覚(表在感覚)
 - 温度覚(温覚、冷覚)
 - 痛覚

3.五感と二覚② 二覚

○ 固有受容覚

- 無意識感覚
- 筋肉や、腱、関節の感覚
- 手足が、どんな位置にあるかを判断する能力



○ 前庭覚

- 無意識感覚
- 頭の位置やその動きを感じ取って、変化に対応できるような自動的な体の動き(バランス)、重力、回転、加速度を感じ取る感覚



4-1.触覚の役割



- 本能に強く関わる感覚安心・安全と、危険・防衛の違いを感じ取るセンサー
- 体と体が触れ合うことで、分かりあう関係を育む
- 情緒の安定
- 自己肯定感、絆
- 思考活動
- 全身運動。微細運動

4-2.触覚が崩れると

- 防御反応が起きやすい
 - 服の繊維が気になる
 - 歯磨き、爪切り、耳そうじが苦手
 - ベタベタ、ツブツブ、ねちょねちょが苦手
- 拒否
- 不安
- 強いこだわり
- 動きのぎこちなさ
- 対人関係の取りづらさ



5-1.固有受容覚の役割



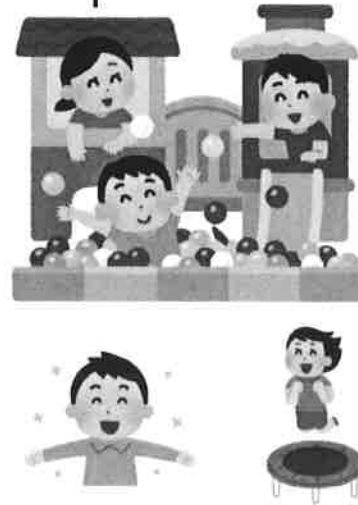
- 筋肉・関節の感覚
 - 角度、力の入れ具合
- 運動感覚の発達
- ボディーイメージの形成
- 運動パターン
- セルフィメージの形成
- ガムをかむ、おせんべいをかむなどの口腔周辺の固有受容覚は脳に直結している。
 - 集中力向上、眠気抑制、落ち着きなど

5-2. 固有受容覚が崩れると



- 運動の調節が難しい(力加減、速さ)
- 運動するときに自分の手足をどう動かしたらいいのか分からない
 - ジャングジムやボルダリングで、手足の置き場所が分からない、力加減が分からない
 - こぼさず物を運ぶなどの動きが難しい
 - ダンスなどの模倣が苦手
 - 紙パックの中身が飛び出る

6-1. 前庭覚の役割



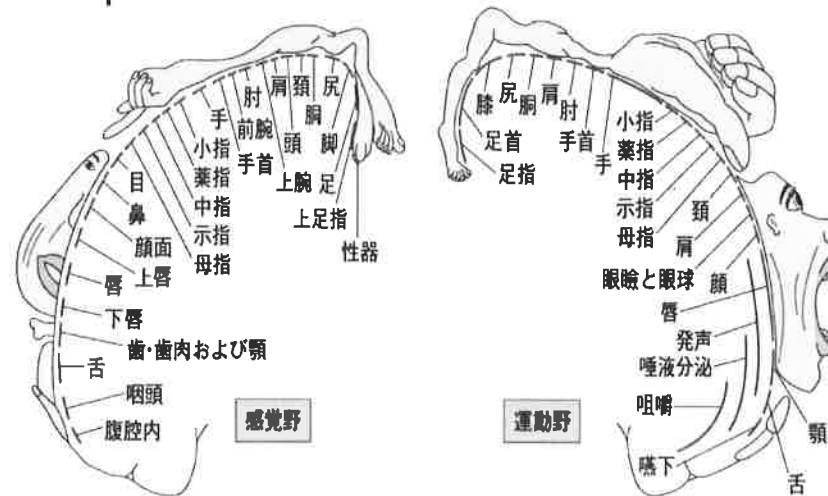
- バランス、重力、スピード
- 筋緊張の安定
- 目の動きのコントロール
- 姿勢のコントロール
- 脳の覚醒、注意力
- 左右の把握
- 言語の発達
- 情緒、情動の調整

6-2. 前庭覚が崩れると



- 体の動きがぎこちなく、動きに努力が必要
- 姿勢やバランスに影響
- ボーっとして集中しにくい
- 追視、跳躍する目の動きに影響
 - ボールが目で追えない、本読みが苦手

7. ペンフィールド ホムンクルス(小人)



8.不器用な原因ってなんだろう

- 鉛筆やクレヨンが正しく持てない
- 筆圧が弱い、強すぎる
- 定規、ハサミ、コンパスがうまく扱えない
- 楽器演奏が苦手
- 体操やダンスの模倣が苦手
- 縄跳び、跳び箱、ボール遊びなどが苦手
- お箸やフォーク、スプーンが正しく使えない
- お尻がふけない・・・など



9.ボディーイメージの形成要素

- ボディーイメージ(身体図式)を形成を促す3つの感覚
 - 触覚・固有受容覚・前庭覚
- 手足の協調運動
 - 両側が同じタイミングで同じ運動が出来ることが基本であり、左右違う動き、分離した動きは難易度が高い
- 正中線がわかる
 - 両手を中心で使うこと
- 正中線交差が出来る
- 両手と、両側の協調を促す



10.動きのステップアップ

- 粗大→微細
- やさしい→難しい
- 低い位置→高い位置
- ゆっくり→速い
- 相同→同側→片側→交叉



11.感覚を使った親子遊び紹介①

出典：子どものあそびポータルサイトミックスじゅーちゅ



11. 感覚を使った親子遊び紹介②

出典: 子どものあそびホームページミックスじゅーちゅ



12. 遊びの中で気を付けたこと

- 途中で遊びが変わっても気にしない
- 時間に余裕を持つ
- 無理にやらせようとしない
- 好きなように、やりたいだけさせる
- 「やりたい！」は発達途中！どんどんやらせる
- 手足をしっかりと床につける
- 手をしっかりと握らせる
- 何よりも、一緒に楽しむことを大事にする

